



海上保安大学校・海上保安学校

入学案内

JAPAN COAST GUARD ACADEMY & SCHOOL



JAPAN COAST GUARD

海上保安大学校 海上保安学校

海上保安庁・海上保安官の仕事



海の安全と治安を守る。
それが使命。

船艇で活躍

船長

船橋

船艇運航の全般を統括し、指揮監督する最高責任者です。

業務管理官

船橋

業務計画等を企画立案し、船長を補佐する業務監督責任者です。

航海科職員

船橋

操船、見張り、航海計画の立案、船体の手入れ等を担当します。

機関科職員

機関室

エンジンの運転や整備、燃料油の管理等を担当します。

通信科職員

通信室

他の巡視船艇や一般船舶との通信や通信機器の整備等を担当します。

運用司令科職員

OIC 区画

情報の収集・分析、対処方針の立案・調整を担当します。

主計科職員

調理室

庶務や経理、物品等の管理、調理、看護等を担当します。

航空機で活躍

ヘリコプター搭載型巡視船

航空科職員

飛行甲板

ヘリコプターの運航・整備を行います。

航空基地

飛行科職員

パイロットとして航空機の運航を担当します。また、機長として、その機体の運航・業務を統括します。

整備科職員

航空機の機体整備や燃料油の管理などを担当します。
フライトの際には航空機に搭乗し、機体の管理を行います。

通信科職員

通信機器の操作や整備を担当します。
航空機、航空基地、巡視船艇等との相互通信を行います。

陸上で活躍

総務業務

政策の企画・立案や総合調整、広報、職員の人事及び福利厚生等を行います。

経理補給業務

予算の執行、施設や物品等の管理を行います。

情報通信業務

情報通信システムの整備、管理や情報管理に関する業務を行います。

船舶技術業務

船舶・航空機の建造に関する業務のほか、各種装備に関する技術の検討等を行います。

警備救難業務

領海警備や海上犯罪の捜査、海難救助等に関する業務や巡視船艇・航空機の運用調整を行います。

海洋情報業務

海洋調査による海洋情報の収集、収集した情報の提供、海図の作成等、海洋情報に関する業務を行います。

海上交通業務

海上交通のルールの設定や航路標識の管理、海難の調査等、海上交通の安全に関する業務を行います。



海上保安大学校

広島県 呉市

将来の幹部職員を養成



海上保安大学校は、「海上保安庁の幹部職員に必要な学術及び技能を教授し、心身の錬成を図るとともに、海洋政策に対する調査研究をする」ことを目的としています。



広範囲にわたる海上保安業務の職責を全うする資質を培い、かつ、将来に向かって絶えず向上伸展できる資質を養成するために、人格の陶冶とリーダーシップの涵養、高い教養と見識の修得、強靱な気力・体力の育成を教育方針として、教育訓練を実施しています



カリキュラム

2学年の後半から、航海・機関・情報通信 という3つの分野のうち一つを選び、卒業後の進路を決定していきます。

本科を卒業した学生は専攻科に進み、世界を一周する遠洋航海実習を行い、国際感覚を養います。

その後3ヵ月間の研修科国際業務課程において、語学を中心とした国際対応能力や実践的な海上保安業務に関する知識を修得し、巡視船の初級幹部職員として配属されます。

入学				専攻科(6ヵ月) + 研修科 国際業務課程(3ヵ月)	
本科(4年間)					
1学年	2学年	3学年	4学年		
基礎教育科目 幅広い教養を身につける 共通科目 哲学、文学、法学、法学演習、憲法、経済学、数学、統計情報処理、物理学、物理学実験、化学、化学実験、英語、英会話、保健体育 等 選択科目 ロシア語、中国語、韓国語のいずれか					
専門基礎科目 専門教育を受けるため、まず必要な基礎能力を身につける 共通科目 国際政治、政策科学、情報科学、気象学、海洋学、実務英語、リーダーシップ論、国際法、刑法、刑事訴訟法、行政法、民法 等 群別科目 第一群(航海)・第二群(機関)・第三群(情報通信)のいずれか		第一群 航海学、船用計測工学、船体運動工学、海事法、船舶工学 等 第二群 材料力学、機械力学、工業熱力学、電気機械工学、原動機工学 等 第三群 情報理論、電子回路、通信システム、電磁波工学、通信工学実験 等			
専門教育科目 複雑化・国際化している海上保安業務に対応するために必要な、高度な専門能力を身につける 共通科目 海上保安制度論、海上犯罪捜査、捜索救助、海上交通政策学、海上警察権論、国際紛争論、国際海洋法、海上安全学、海難救助工学、特別研究、組織行動論、海上保安演習、海上警察政策 等				その他 実用英語、国際業務、現場実務、海上犯罪論、海上安全工学論	
訓練科目 逮捕術から救急安全法まで特殊技能を身につける 逮捕術、けん銃、武器、端艇・信号、潜水、水泳、総合指揮(基本動作等、統率管理)、救急安全法 等					
実習科目 小型船舶の操船技術や通信技術を学ぶ 小型船舶、通信実技、国際通信実習 等					
乗船実習 習得した船舶運航の知識、技能を実際の船上で実践し、業務遂行能力を身につけます。					
国内航海実習		国内航海実習		遠洋航海実習	

卒業後の進路

幹部への道

巡視船の主任職員として配属された後、能力や適正に応じて、本庁・管区本部や航空基地での課長職、また巡視船の船長など、海上勤務と陸上勤務を交互に繰り返しながら、さまざまなキャリアを積み幹部職員となります。

1日の流れ	
06:30	起床(起床整列・体操・清掃)
07:10	朝食
08:20	課業整列
08:45	授業
12:00	昼食
13:00	授業
	授業終了後体育部活動
17:15	夕食・入浴
19:00	自習時間
22:15	帰校門限
22:30	巡検・消灯

※原則として17:15以降毎日外出は可能です。
 休日の前日は外泊もできます。
 ※帰校門限22:15(翌日が休日の場合は23:00)
 ※おおむね土曜日、日曜日、国民の祝日は休日です。
 そのほかに、夏期・年末年始などに長期の休暇もあります。

年間行事
4月：入学式
5月：遠洋航海出港式
6月：海神祭(学生祭)
7月：遠泳訓練
オープンキャンパス
学生国際会議
8月：遠洋航海帰港式
帆走巡航
11月：特別研究(卒業論文)発表会
1月：耐寒訓練
3月：卒業式





海上保安学校

京都府 舞鶴市

各分野の専門職員を養成



海上保安学校は海上保安庁の各分野における専門の職員を養成する教育機関です。学生は採用試験申込時に5つの課程のうち、いずれかを選択します。



三方を舞鶴湾に囲まれた静かで美しい環境の中にあり、海上保安業務に必要な学術や技能を教授し、併せて心身の錬成を行い、実践に即応できる海上保安官の育成を目的に設置された海上保安庁の教育機関です。卒業後は巡視船艇の乗組員などとして配属され、能力や適性に応じ特殊任務を行うベシャリストになる道もあります。



課程とカリキュラム

課程及び コースの 紹介	船舶運航システム課程(1年)			情報システム課程(2年)	管制課程(2年)	航空課程(1年)	海洋科学課程(1年)
	航海コース	機関コース	主計コース				
海上保安官として巡視船艇の運航に必要な知識・技能及び海上犯罪取締等に必要知識を習得する課程です。				海上保安官として通信機器の運用・管理及航行安全に必要な知識・技能及び海上犯罪取締等に必要知識を習得する課程です。	船舶交通を管制する業務に関する知識・技能を修得する課程です	海上保安庁の航空機のパイロットになるための基礎教養を習得するとともに、海上犯罪取締等に必要知識を習得する課程です。	航海の安全を確保するために必要な様々な海洋データを収集・解析し、提供する海上保安官を育てる課程です。海洋の科学的資料の収集・解析に必要な知識・技能を学びます。
教育内容 (共通)	基礎教養 英語、情報処理、体育、基本動作、小型船舶操縦、乗船実習、統合実習、訓練						
	刑法、刑事訴訟法、海上警察、救難防災、海上環境						
教育内容 (課程、コース別)	航海、運用、海事法、気象・海象等	機関、電気機器、海事法等	主計(総務・経理補給・船舶衛生)、調理等	数学、物理、通信実技、情報通信、航行安全、電気機器、基礎電子工学、航行援助システム機器等	情報通信、航行安全、管制業務機器、海事一般、シュミレータ業務、英語等	数学、物理、気象・海象、航空通信運用、海上航空業務、船舶概要論等	数学、基礎科学、海上安全業務、気象・海象、海洋情報業務管理、測量、水路図誌編集等

卒業後の 進路

管内転勤

巡視船艇等
(警備救難業務等)

海上保安部等
(海上交通業務等)

※卒業後、「潜水士」「特殊救難隊員」「国際取締官」といったスペシャリストとして活躍する道もあります。

全国転勤

海上交通センター

巡視船艇・陸上部署

航空研修
(パイロット養成)

航空基地
(警備救難業務等)

本庁・管区本部
(海洋情報業務等)

幹部登用への道

一定期間現場で仕事をした後、選抜された職員については、海上保安大学校の特修科に進み、幹部職員となる道もあります。

1日の流れ

06:30	起床(起床整列・体操・清掃)
07:10	朝食
08:20	課業整列
08:45	授業
12:00	昼食
13:00	授業
	授業終了後体育部活動
17:15	夕食・入浴
19:00	自習時間
22:15	帰校門限
22:30	巡検・消灯

※原則として17:15以降毎日外出は可能です。

休日の前日は外泊もできます。

※帰校門限22:15(翌日が休日の場合は23:00)

※おおむね土曜日、日曜日、国民の祝日は休日です。

そのほかに、夏期・年末年始などに長期の休暇もあります。

年間行事

- 4月：入学式
- 5月：春季行軍
- 6月：基本動作競技会
- 7月：五森祭り(学生祭)
- 遠泳訓練
- オープンキャンパス
- 9月：卒業式
- 10月：入学式
- 11月：基本動作競技会
- 12月：早朝訓練
- 3月：卒業式





JAPAN COAST GUARD ACADEMY & SCHOOL

海上保安大学校・海上保安学校

学生からのメッセージ

日々是成長!

海上保安大学校 3学年三群(情報通信) 清水 貴 允

入学前は体力面で不安がありました。日々の訓練をこなすことで成長を実感しています。特に水泳が苦手な私は、5マイル(約9キロ)の遠泳を完泳できたことは、大きな自信につながりました。

精神面では、入学当初は、親元から離れ、慣れない寮生活ということもあり、つらいときもありましたが、同期と共に励ましあい、助けあうことで乗り越えることができました。

当校での生活は様々な知識を得ることができるだけでなく、自らが主体性をもって考える機会が与えられ、様々な面で大きく成長できます。



幹部職員としての自覚を養う

海上保安大学校 2学年一群(航海) 仲村 萌 加

将来は「人の役に立ちたい」、「人と関わりのある仕事がしたい」と思っていました。また、幼いころから水泳を習っており、この特技を生かすことができると考えた職業が海上保安官でした。

現在は2学年になり下級生ができたことで、相手がどう思うか考えながら指導し、率先垂範の実践として下級生の見本となるよう生活することの大変さを感じています。将来幹部職員となる私たちにとって当校での下級生指導という経験は、将来現場に出た際に部下職員への指揮監督という面で生きてくると考えており、試行錯誤しながら大学校の生活を送っています。

5つ課程から希望の業務が見つかるはず

海上保安学校 船舶運航システム課程 航海コース 黒川 俊 輔

私は人命救助や海を守る仕事に就きたいと思い入学を決意しました。また、気象や天文に興味があったことや、船旅が好きだったので、大型船を操船してみたいと思い航海コースを志望しました。ここでの生活は船艇での生活を模擬していますが、船は一人では動かせないため、集団生活の中で仲間とコミュニケーションを取ることは不可欠だと考えています。

海上保安学校は5つの課程に分けられているため、きっと皆さんの希望に合う仕事が見つかると思いますし、現場に出ても様々な業務があるため、常に目標を持ち続けられる環境にあります。





海洋調査できれいな海を守りたい

海上保安学校 海洋科学課程 藤田 栞菜

大学生のころ所属していたスキューバダイビングサークルの活動で見てきた奄美大島や小笠原諸島などの日本のきれいな海を守りたい。この想いから私は、海上保安学校に来ました。

海洋科学課程では、座学だけでなく、学校前の海での実習、管区本部や本庁での実習、測量船実習等を通して、主に水路測量や海象について学んでいますが、動物好きで大学では魚類について学んだ私は、やはり海洋環境保全のための海洋調査を希望しています。将来的には測量船に乗って全国の海を調査し、日本の海に貢献していきたいです。

世界の海で活躍する海上保安官

海上保安学校 情報システム課程 松村 啓生

私は学生時代から海に興味があり、ニュースで海上保安庁を知り、海での様々な事態を解決する仕事や日本だけではなく世界の海で活躍する海上保安官に憧れ入学を決めました。

情報システム課程を選んだ動機は、巡視船艇での通信業務や船舶が航行するときの安全に携わりたいと感じたからです。「海のすべてを守る海上保安官になる」ため、英語をはじめとした語学力の向上と国際法の勉強を心がけています。

将来は、海難救助などで遠方でも迅速に対応できる航空機に搭乗しての通信業務に就きたいとも考えています。



経験豊富な教官とネイティブ講師の授業で成長を実感

海上保安学校 管制課程 田中 萌愛

私は、幼い頃からずっと海上保安官である父の背中を見て育ち、同じ道へ進みたいと思っていました。そして、海の事故を未然に防ぎ、海の安全を守る運用管制官に魅力を感じ、管制課程を受験しました。

管制課程は、業務の基となる法令や船の原理、構造に関する様々なことを現場で豊富な経験を積まれた教官から学び、実際のレーダー画面を用いた実技などを行っています。運用管制官は、外国船舶とも通信を行うため、学校の授業でも特に英語に力を入れており、英語が苦手な私もネイティブ講師による授業を通して、英語力が大きく向上しました。



日本の海を空から守りたい

海上保安学校 航空課程 中間 圭哉

海上保安庁のヘリコプターのパイロットは、海難の際にいち早く現場に向かい、人命救助をできることに魅力を感じ、航空課程への入学を決めました。

航空課程の授業は、航空機を運航するための基礎的な事項や、航空無線通信士の資格を取得するための知識のほか、海上保安官として必要な知識や技能を習得します。海上保安学校を卒業後はパイロットになるための本格的な研修が始まりますが、立派なヘリコプターのパイロットになって、領海警備や人命救助等の業務を通じて、日本の海を空から守ることを目標として日々努力しています。



活躍する卒業生

羽田特殊救難基地

佐藤 卓也 (31)

海上保安学校 船舶運航システム課程 卒業 平成23年 4月 初任

学生時代に出会った 先輩が背中を押してくれた

学生時代に、特殊救難隊の隊長からアドバイスをいただいたのが、運命の分かれ道でした。

両親の勧めもあり、高校を卒業後、日本体育大学へ進学し高校時代に培った野球部での経験や、ライフセービング部での活動を積極的に行う学生生活を過ごしました。

大学2年で中退し、海上保安学校を受験する選択肢もありましたが、大学を卒業することを選んだのは、大学の先輩であった隊長からの導きのおかげです。

卒業後しばらくは、日本体育大学の海浜実習の学外講師、小中学校の保健体育の学外講師など、非常に貴重な経験をしたことが、保安学校に入学後も大変役に立っています。

採用試験の勉強方法は参考書を、自分の言葉に置き換え、要約することでした。

特殊救難隊になりたいという気持ちには強かったのですが、焦ることなく、一つずつ前進することを意識しました。

「人のために何かをしたい」

特殊救難隊は、想像を超えるシーンでの救難活動が多くあります。現場に行って手を差し伸べることができない方の分まで、私たちは救助の手を差し伸べることができます。

大変な業務ですが、多くの方の気持ちを背負う仕事が一番のやりがいです。

「成長は、学生時代に何を学び、何を勉強するかが鍵」

学生時代に学んだこと、経験したことが、今の仕事に活かしています。特殊救難隊だからといって特別な人間ではありません。





特殊救難隊からのメッセージ

諦めなければ夢は叶う!

第三管区海上保安部、横浜海上防災基地に黙々と訓練に励む3名の姿が目止まる。海上保安官の中でも、高度な技術や専門知識を必要とする特殊救難隊。

巨大な訓練用の水槽で、目隠しをしながら行う水中での救助訓練が行われていた。

心をつなぐ、お互いを信じ、助け合うバディとの訓練は、あらゆる海難シーンを想定し何度も繰り返されていたが、訓練を終えたところで話を聞いた。

「入庁してのころは、水泳は苦手な方でした。」

「特殊救難隊の隊員が笑顔で話してくれました。体力も技術も全てにおいて厳選された隊員のみがここにいるわけではありません。実は、潜水士になる前は、海上保安学校の遠泳も気合で泳ぎきったくらいです。運動部に所属してなくても大丈夫です。今年は、吹奏部出身の隊員が配属され、一緒に訓練に励んでいます。」

「人のためになりたい。助けたい気持ちで自分を変えます。」

「特殊救難隊が特別なわけではありません。一人一人の懸ける思いが、過酷な現場を乗り越える強い心と、相手を思いやる強い絆を生み出しているのです。」



東京湾海上交通センター 高賀 伶 (21)

海上保安学校 情報システム課程 卒業 平成30年4月 初任

自分がやりたいと思った ことをやるのが一番!

父親が海上保安官で管制官だった影響もあり、自分も海上保安官を目指し、海上保安学校へ入学しました。父の背中を見ていたため、ある程度のイメージはできていましたが、先輩に恵まれ楽しい職場で日々充実した生活を送っています。

東京湾海上交通センターは、東京湾における船舶交通の安全性や効率性を向上させることを任務としています。

一時も目が離せない運航情報は、行き交う船舶への的確な情報を届け、未然に海難を防止するとても重要な役割を担っています。

入庁1年目でも、先輩方のサポートもあり、不安も消えて業務に集中することができました。

また、英語による管制指示が日課のため、自然と語学力が身につく、今では諸外国の船舶に英語で管制指示を送ることができます。

風通しの良い職場が、私の成長を押し上げてくれた要因です。海上保安庁の中でも、決して花形のポジションではありません。

ただ、未然に海難を防ぐという、やりがいと達成感のある管制官は、自然と笑顔が生まれる自慢の職場です。



中部空港 海上保安航空基地 飛行士

小林 雅希

平成26年 海上保安学校 航空課程 卒業

海保のパイロットを目指した理由は何ですか

子供の頃からパイロットになりたいという夢がありました。映画「海猿」を見て、海上保安庁の存在と厳しい環境で救難業務を行う航空機の存在を知り、海保のパイロットを目指したいと思いました。入庁前から回転翼を希望していました。回転翼にはホバリング状態からの吊上げ業務があり、自分の腕で直接的に救助業務を行いたいと思い希望しました。フライトスクールでライセンスを取得する場合は多額の費用と時間がかかるので、パイロット養成の環境が整った海上保安庁を選びました。

海保のパイロットとエアラインのパイロットの違いは何ですか。

エアラインのパイロットは目的地に航空機を飛ばす事が仕事ですが、海保のパイロットは航空機を使って海上保安業務をします。航空機を操縦する事だけが仕事では無く、警備救難に対する知識能力も必要になります。エアラインはあらかじめ決められた場所に決められた時間に航空機を飛ばしますが、海保の航空機が行うミッションの内容や状況は毎回変わります。難しい部分もありますが、操縦技術を磨いた結果、人命を助ける事ができるのは大きなやりがいがあり、素晴らしい仕事だと感じています。

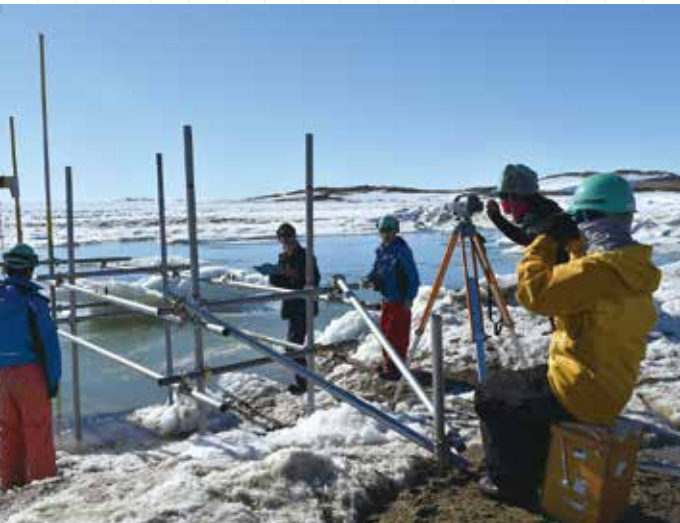


今の仕事のやりがいを教えてください。

副操縦士として自分がベテランの機長や他のクルーに混じって、フライトがスムーズに進むように補佐を行い、業務を遂行できたときはやりがいを感じます。印象に残っているミッションは自分が副操縦士として搭乗した初めての救難フライトで、漂流したサーファーを2名吊上げた事です。自分が乗ったヘリで人を助けられた喜びは印象に残っています。

先輩からのメッセージ(入学を検討している方へ)

海上保安庁はパイロットになりたいという夢を実現できる環境が整っています。自分が進路を選択する時、パイロットになるには、多くの努力と時間が必要で実際、ライセンスを取得するまでには辛いこともありました。パイロットを目指す同期や教官など多くの人が協力してくれ、航空に対しての知識もほぼ無い自分でもパイロットになれました。航空機を操縦して警備事案や海難救助等を行えることは、非常に大きなやりがいがあると感じます。ぜひ、航空課程を希望していただければと思います。



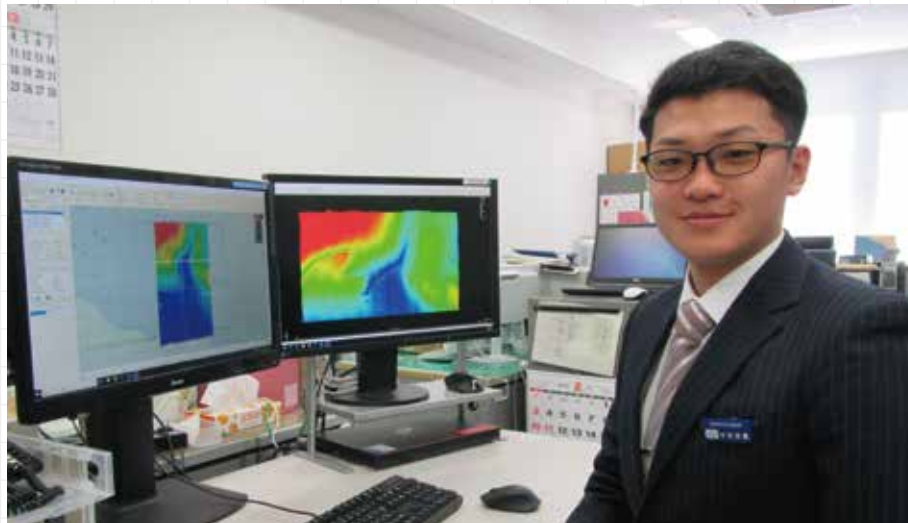
第四管区 海上保安本部 海洋情報部 海洋調査課

中村 至貴

平成29年 海上保安学校 海洋科学課程 卒業

現在の仕事内容とやりがいを教えてください。

現在は、主に海図の水深等記載内容を新しくするための測量業務を行っており、測量船で取得してきたデータの処理や整理等を行っています。自分が処理したデータが図(補正図)として海図上に反映されたときにやりがいを強く感じます。また、測量を行い、現行海図に載っていない浅い水深を見つけ、航海者に周知される事により、船舶の航行安全に寄与していることを実感しています。



こんなこともできる!している!! 仕事アピールをしてください。

- 南極観測……南極地域観測隊の一員として、南極へ行く機会もあります。
- 航空レーザー測量……航空機を使って船では進入できない浅い海域の測量ができます!

今後、取り組んでみたい業務や興味を持っている業務は何ですか?

航行警報、水路通報等を航海者へ発信する情報系の業務に興味があります。測量とは違う性質の業務ですが、航海者へ情報提供を通して航行安全に寄与する業務ですので、機会があれば携わってみたいです。

先輩からのメッセージ(入学を検討している方へ)

海上保安学校では貴重な体験ができると思います。海上保安官になるための基礎的な勉強や訓練、同期・先輩・後輩と共に過ごす寮生活などを通して、互いに助け合って壁を乗り越えていくような日々が待っています!

女性職員の活躍推進



名古屋海上保安部 巡視艇あゆづき船長

安藤 美緒 (左側)

平成22年 海上保安大学校 本科 卒業

名古屋海上保安部 巡視艇あゆづき航海士補

高須 南 美 (右側)

平成30年 海上保安学校 船舶運航システム課程 航海コース 卒業

なぜ海上保安官になろうと思ったのですか。

安 巡視船みずほの見学で海上保安官とはじめて話し、かっこいいなと思ったのがきっかけです。調べうちに、幅広い分野の業務に携われることを知って、海上保安官を目指しました。

高 山育ちなので、元々海に憧れがありました。進路に悩んでいる時、救難から警備まで幅広い業務内容があると知り、魅力的だなと思いました。オープンキャンパスでの学生の制服姿がとてもかっこよくて、自分も着たい!と思ったのも決め手のひとつです。

巡視船での勤務の感想はいかがですか。

安 一般的な職場とは違い、船内で同僚(乗組員)と昼夜を共にするので、人間関係が濃厚で楽しいです。また、巡視艇勤務では、何か事案が起こったときに自らの船がその現場に行き対応できるので、やりがいも感じやすいです。私を含め10名の乗組員にはそれぞれ長所・短所がありますが、常に、個々ではなく船として業務にあたるので、全員の力で結果的に船の任務を果たしていくところが巡視艇勤務の醍醐味だと感じています。そのために、個々の能力を高めたいと思わせてもらう毎日です。

高 少ない人数で毎日過ごし、業務を行うので、アットホームな雰囲気勤務することができるのが一番の強みです。初めは狭い船内での生活に不安を感じましたが、すぐに居心地のよい場所へと変わりました。「あゆづき」は、消防機能強化型巡視艇なので、消防関係や、有害危険物質の対応訓練等、他の船では経験することができない業務に携わることができます。それだけではなく、航路しょう戒や、取締り、救難訓練等、魅力的だった幅広い業務を経験することができるので、巡視艇で勤務する日々は今までの人生の中で一番充実しています。また、船で見る大きな海と青い空は格別です。

女性の職場としての働きやすさはいかがですか。

安 船艇勤務に限って言えば、狭い船内生活という特殊

な環境であること、非常呼集があること、泊まり勤務が多いことから、一般的な「働きやすい環境」とは言えないと感じます。ただ、それは「女性」に限ったことではなく、船艇勤務の特殊性と感じており、個人的には働きにくさを感じたことはありません。

高 力仕事の面では、助けてもらうことが多くあります。私は着任した当初、男性の先輩に、「女性ができる範囲は言ってもらえないとわからないから、頼まれたことをやろうとしてもできないようであれば、無理しなくていい。できることを最大にやればいい。」と言われ、すごく女性が働きやすい職場だと感じました。訓練では、男性とは力の差がありますが、力量にあわせた訓練を組んでくれます。当然ですが、お風呂、トイレ、居室は完全に男性と別になっています。人数の少ない女性のための女性研修があるところも助かっています。

女性の職場としての苦労はありませんか。

安 陸上職員のとときは、「女性であること」による苦労を感じたことはありませんでしたが、モデルケースとなる女性の先輩が少ないため、将来の見通しが立てられずに不安を感じることはありました。船艇勤務では、法律や規則によって女性の労働について制限があることから、苦労というよりも、知識が必要だと感じます。あとは、相対的に男性よりも身体が小さく力が弱いことが多く、それを補うための最低限の努力は個人的に必要なと感じています。

女性海上保安官ならではの活躍の場や遭遇した場面があれば教えてください。

安 フェリーの船内窃盗事案があったときに、多数の女性や子供の乗客からも指紋採取を行うとのことで、女性保安官として応援に行ったことがありました。また、強制捜査の際、被疑者が配偶者ということが予想されたため、急遽捜査班に組み込まれたこともありました。このような棚ぼたのチャンスが女性保安官

には多く巡ってくる分、予期せぬタイミングでいきなり本番ということも多いので、日頃からの準備が肝要だと実感しています。

高 私は強制捜査の際、被疑者の奥さんが取り乱すのをなだめたことがありました。捜査中の保安官の中で、女性保安官は私だけだったので、男性では接しにくい場面で、役に立てたと思いました。

先輩からのメッセージ(入学を検討している方へ)

安 どんな仕事に就いても良いところ、悪いところはありますが、私が海上保安庁に入ってよかったと思うのは、周りに熱い想いを持った人が多いため、自分を高めようと思えばいくらでも高める努力ができる環境に身を置くこと、一言で海上保安官と言っても様々な業務に携われること(救難、警備、交通、総務等)、全ての仕事で「現場のために」という意識が全職員にあって職場に活気があることです。短い人生の中で、やりがいを感じられる仕事ができることは幸せです。

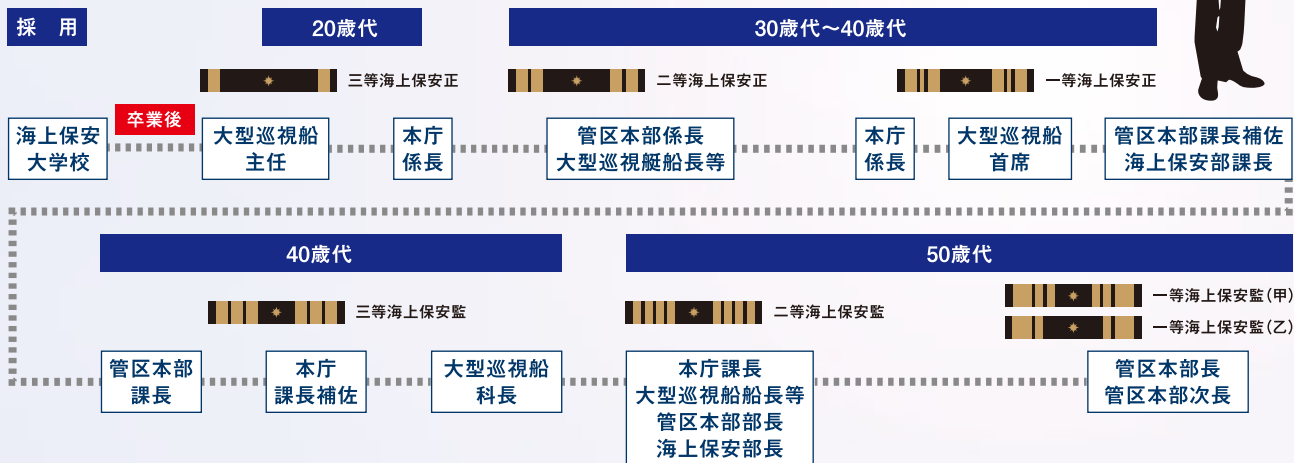
高 海上保安官の仕事は、幅広い業務を経験することができます。自分が操船する船で見る、青い空、大きく広がる海を想像すると、わくわくしませんか? きっと多くの人はあまり船に乗ったことがないと思いますが、わたしのようには海に憧れがあった、というだけでも、必ずやりたい仕事が見つかります。世間にはたくさんの職業がありますが、こんなにも幅広い業務があるのは海上保安庁だけです。ぜひ、一緒に働きましょう。

キャリアアップモデルケース

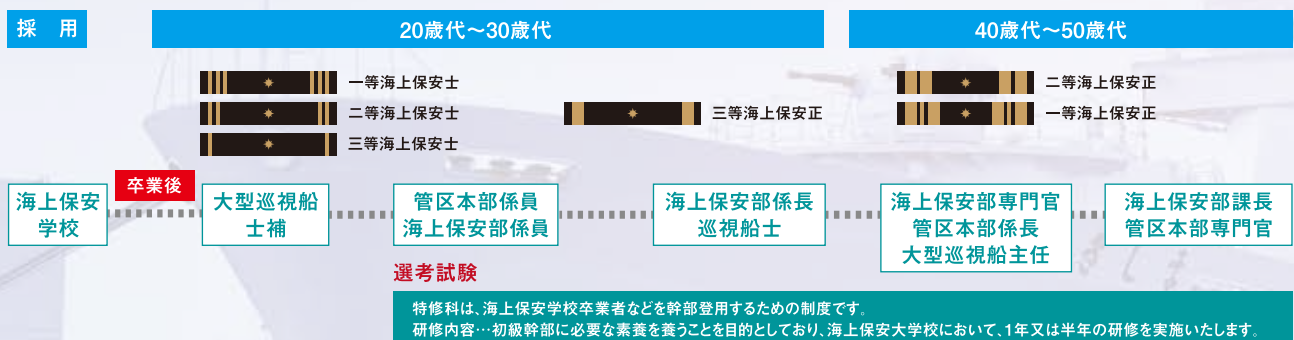
※一例であり、個人の能力、適性等により異なります。



海上保安大学校卒業生の進路



海上保安学校卒業生の進路(船舶運航システム課程の例)



特修科修了後の進路



FAQ~Frequently Asked Question~

海上保安庁の学生募集や採用試験を担当している教育訓練管理官に寄せられる、よくあるご質問にお答えいたします。

Q1.海上保安大学校と海上保安学校の違いは何ですか。

A 海上保安大学校は海上保安庁の幹部職員を養成することを目的として、採用した学生に対し海上保安業務に必要な高度な学術や技能を教授します。教育期間は本科4年、専攻科6ヶ月及び研修科国際業務課程3ヶ月の合計4年9ヶ月です。海上保安学校は海上保安庁の一般職員を養成することを目的として、採用した学生に対し海上保安業務に必要な学術や技能を教授します。教育期間は課程により1年と2年に分かれています。

Q2.海上保安大学校と海上保安学校の併願は出来ますか。

A 海上保安大学校学生採用試験と海上保安学校学生採用試験の併願は可能です。

Q3.入学金、授業料は必要ですか。

A 海上保安大学校、海上保安学校ともに入学金、授業料は一切必要ありません。また、学内の生活に必要な制服や寝具類は貸与されます。ただし、教科書、食費、身の廻り品等は自己負担です。

Q4.海上保安大学校、海上保安学校へは自宅から通学出来ますか。

A 海上保安大学校、海上保安学校ともに、学生は在学中、全員が校内にある寮で生活します。

Q5.受験するにあたって有利となる学校や学科はありますか。

A 受験に際して、どの学校又は学科が有利になるというものはありません。高等学校を卒業された方ならどなたでも受験可能です。

Q6.海上保安庁のパイロットになるには、海上保安学校航空課程を受験する必要がありますか。

A 海上保安学校入学者については、航空課程入学者のみが航空機操縦要員となります。海上保安大学校入学者については、本人の希望、適性等を考慮した上で、航空機操縦要員を選抜します。その他にも、既に航空機操縦士資格を有する方を対象とした、海上保安庁航空機職員採用試験があります。

Q7.海上保安学校航空課程を受験するのにパイロットの資格は必要ですか。

A 海上保安学校航空課程を受験するのにパイロットの資格は必要ありません。

Q7.海上保安官に向いている人はどんな人ですか。

A 海上保安庁の仕事は、幅広い業務があり、一概に向き不向きは決められません。船は一度出港すると何日も帰ることができない場合もありますし、仕事は組織で進めていくので、チームワークを重視する人が向いていると思います。

Q8.オープンキャンパスは行っていいのですか。

A ●海上保安大学校
例年、6月上旬の土日に開催される学生祭「海人祭」に併せて、2日間、7月中旬の土日祝の1日間の年2回実施しています。詳細については海上保安大学校総務課人事係(TEL.0823-21-4961)までお問合せください。

●海上保安学校
例年、7月上旬に開催される学生祭「五森祭」に併せて1日実施しています。詳細については海上保安学校総務課人事係(TEL.0773-62-3520)までお問合せください。

海上保安官を目指す方へ

待遇

■入学と同時に国家公務員としての身分を与えられるため、海上保安大学校、海上保安学校では、毎月15万円(平成30年度)の給与や期末手当、皆勤手当(いわゆるボーナス)が、海上保安学校門司分校では、入社までの職務経歴に応じた給与等が支給されます。

■国土交通省職員として、国土交通共済組合員としての社会保障を受けることができます。

受験資格 (2019年度の場合)

■海上保安大学校学生採用試験

2019年4月1日において高等学校又は中等教育学校を卒業した日の翌日から起算して2年を経過していない者及び2020年3月までに高等学校又は中等教育学校を卒業する見込みの者 等

■海上保安学校学生採用試験

2019年4月1日において高等学校又は中等教育学校を卒業した日の翌日から起算して5年を経過していない者及び2020年3月までに高等学校又は中等教育学校を卒業する見込みの者 等

■海上保安学校学生採用試験(特別)

2019年4月1日において高等学校又は中等教育学校を卒業した日の翌日から起算して6年を経過していない者及び2019年9月までに高等学校又は中等教育学校を卒業する見込みの者 等

■海上保安学校門司分校(有資格者採用)

海技士、船舶料理士、無線従事者、航空従事者の資格を有する者。試験区分ごとに異なりますので、詳細はお問い合わせ下さい

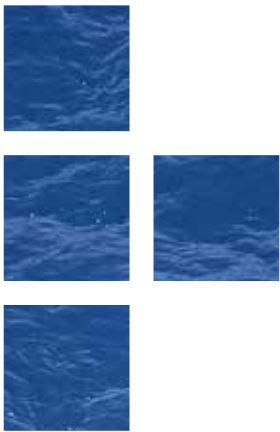
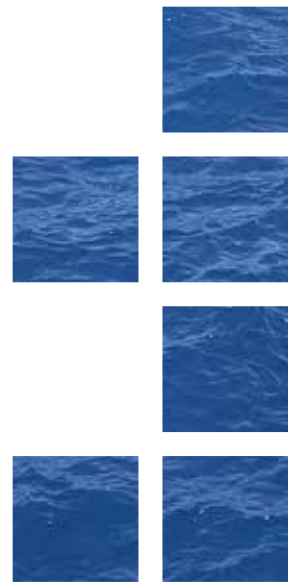
試験日程 採用試験の日程等について(2019年度の場合)

		海上保安大学校	海上保安学校	海上保安学校(特別)	海上保安学校門司分校
受付期間	インターネット	8月22日～9月2日	7月16日～7月25日	3月29日～4月5日	海上保安学校門司分校の採用試験は、当庁職員の在職状況により、募集する職員の種類(船艇職員、船舶料理士、無線従事者、航空機職員)及び各採用予定人数、試験日を決定しますので、試験日程等はその都度お問い合わせください。
	郵送・持参	8月22日～8月26日	7月16日～7月18日	3月29日～4月2日	
第1次試験		10月26日・27日	9月22日	5月12日	
第2次試験		12月6日	10月15日～10月24日 第1次試験合格通知で指定する日時(航空課程は2日間)	6月5日～6月19日	
第3次試験		—	11月30日～12月10日 第2次試験合格通知書で指定する3日間	—	
最終合格者発表		2020年1月16日	11月19日(航空課程は除く) 2020年1月16日(航空課程)	7月19日	
採用時期		2020年4月	2020年4月	2019年10月	

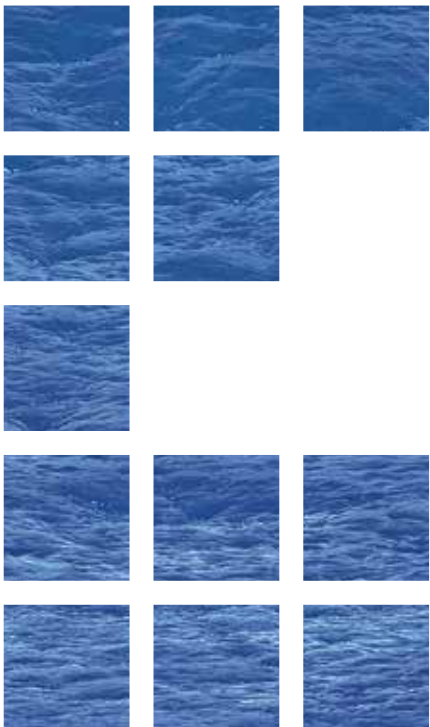
▶お問合せ先

海上保安大学校・海上保安学校・海上保安学校(特別)
海上保安庁総務部教育訓練管理官学校教育 / TEL.03-3580-0936

海上保安学校門司分校
海上保安庁総務部人事課任用係 / TEL.03-3591-6361(内線2540～2542)



JAPAN COAST GUARD ACADEMY & SCHOOL



海上保安大学校

〒737-8521 広島県呉市若葉町5-1
TEL. 0823-21-4961 (代表)
URL. <http://www.jcga.ac.jp/>



海上保安学校

〒625-8503 京都府舞鶴市字長浜2001
TEL. 0773-62-3520 (代表)
URL. <http://www.kaiho.mlit.go.jp/school/>



海上保安庁

〒100-8976 東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL. 03-63591-6361 (代表)
URL. <http://www.kaiho.mlit.go.jp/ope/saiyou/bosyu.html>

